

廃棄物対策審議会議事録

会議名	令和 6 年度第 1 回流山市廃棄物対策審議会
日 時	令和 6 年 7 月 12 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分
場 所	クリーンセンター リサイクルプラザ・プラザ館 2 階 研修室 3
出席委員	稲葉委員、羽田野委員、高橋委員、杉村委員、中村委員、和田委員、濱野委員、鈴木（馨）委員、關委員、郡司委員、橋本委員
欠席委員	大谷委員、鈴木（博）委員
会長	稲葉委員
事務局	伊原環境部長、平野クリーンセンター所長、石田副所長、富樫副所長、千葉収集・リサイクル係長、横井管理計画係長、鈴木主査、西山主任主事、濱田主事、宮越事務員
コンサルタント	株式会社 環境技術研究所 山本部長、阪根係長
傍聴人	4 名
議 題	1 諮問 2 1) 流山市一般廃棄物処理基本計画見直しについて 2) その他
配付資料	・ 次第 ・ 席次表 ・ 資料 1 流山市廃棄物対策審議会スケジュール表（予定） ・ 資料 2 基本計画策定の目的と実績 ・ 資料 3 現行計画における施策の取組状況 ・ 資料 4 アンケートの実施について ・ 資料 5 ごみ減量・資源化に関するアンケート調査（市民用） ・ 資料 6 ごみ減量・資源化に関するアンケート調査（事業者用） ・ 資料 7 ごみ減量・資源化に関するアンケート調査（小学 4 年生用）
議事要旨	別紙のとおり

議事要旨

・開会（13 時 30 分） ・議題 1 諮問 2 会長挨拶 3 流山市一般廃棄物処理基本計画見直しについて 4 その他 5 閉会（15 時 30 分）	
富樫副所長	定刻となりましたので、ただいまから令和 6 年度「第 1 回流山市廃棄物対策審議会」を開会いたします。 それでは、開会に当たりまして、井崎市長よりご挨拶申し上げます。
井崎市長	～市長挨拶～
富樫副所長	続きまして、井崎市長から審議会に対して流山市一般廃棄物処理基本計画の見直しに係る諮問がございます。 審議会を代表して稲葉会長にお受け取りいただきますのでよろしくお願いいたします。 それでは、井崎市長から稲葉会長に諮問書をお渡しいたします。
井崎市長	～諮問書を会長へ手交～
富樫副所長	井崎市長は、この後公務がございますので、ここで退席させていただきます。
井崎市長	～市長退席～
富樫副所長	引き続きまして、令和 6 年度「第 1 回流山市廃棄物対策審議会」を開会します。 本日は傍聴される方がいらっしゃいますので、傍聴にあたっての注意事項を申し上げます。 まず、傍聴される方は「流山市審議会等の委員の選任及び会議の公開等に関する指針第 10 条」に基づき、発言や拍手等はできませんので静穏に傍聴してください。 また、撮影や録音等もできませんのでご注意ください。 これに従わない場合には退席をお願いすることになりますので、よろしくお願いします。 次に、本日の資料について確認させていただきます。 ～配布資料確認～ それでは、開会に当たりまして、環境部長の伊原より一言御挨拶を申し上げます。
伊原部長	～部長挨拶～
富樫副所長	それでは、会議に先立ちまして、職員の異動もございましたので、改めて職員紹介をいたします。 ～職員の紹介～ 続きまして、稲葉会長からご挨拶をお願いします。
稲葉会長	～会長挨拶～
富樫副所長	それでは、これより、本日の議事に入ります。 ここからの進行は稲葉会長をお願いします。

稲葉会長	本日の出席委員は11名です。 従いまして、「流山市廃棄物の減量及び適正処理等に関する規則」第4条第2項の規定に基づき、定足数に達しておりますので、会議が成立していることをご報告申し上げます。 それでは、議事に入りますが、まず議題の1「一般廃棄物処理基本計画の見直しについて」事務局より説明をお願いします。
事務局	～事務局説明～
杉村委員	夏のごみと冬のごみは組成が違う。夏のごみは水分重量が多く、冬は少ないと思うが、誤差はどのように出されるのか。数字的に矛盾を感じる。正確な数字なのか。
事務局	月では計算をしておりません。毎年、清掃のあらましを作成しており、年間の排出量を人口・年間日数で割って原単位を出しています。そのため乖離はありません。あくまで年間の数字となっています。また、計量器は計量法に基づいて点検等も行っており、人口も毎月公表されております。
鈴木委員	施策9の具体的な内容を知りたい。 また、森のまちエコセンターの資源化率、堆肥化して肥料にすることによって資源化率はどのようにになっているのか。費用対効果も考慮する必要があるが、クリーンセンターに持ち込まず、森のまちエコセンターに持っていくことについてはどうなのか。
和田委員	関連して、表16の森のまちエコセンターの資源化率については、数字を見ると差がある。分類が変わった等の理由はあるのか。
事務局	施策26の搬入量が乖離しているということについては、現在、ごみ焼却施設の延命化を行っており施設に搬入できないため、外部に搬出しています。
和田委員	外部にどれくらい搬出しているか注釈が必要かと思う。
事務局	剪定枝、施策19について、300トンほど市民に無料で提供しています。堆肥化しない分については、畜産飼料や助燃材としてほぼ100%資源化しています。 施策26については、クリーンセンターへの搬出量、その他搬出量の両方を記載しています。 施策9について、令和2年度にごみ処理手数料の改定として直接搬入量の料金を見直しました。
羽田野委員	人口が増えた割にはごみが減っている。前の計画がうまくいったようにデータからは見える。ただ、元の計画の計画値（目標）は低く見積もっていたようにも読み取れる。人口の増え方の予測結果、実績は21万人なので増えている。人口の読みが変わっているのだから、原単位を出してしまうと、ひとりひとりが頑張っているように見えるけど、人口増加とごみの減少で相対的に見ると破綻しているのではないかと。 次の計画を考えていく上でどの施策が効いたのか考えてみると、施策9のごみ袋の有料化が効いたと思う。どの施策が一番効いたのかが次の計画を立てる時のポイントになる。 事業系ごみは減っているが、実質今年から変わっているので、シンプルに啓発とは違うのではないかと。 また、アンケートについてはなぜ小学4年生が対象なのか。
事務局	学校の指導要領で環境について学ぶのが小学4年生からであるため、小学4

	年生を対象としています。
和田委員	新しい計画を策定するにあたって、SDGsとの関係がどこにも触れられていないのが気になった。
事務局	本日の資料については、現行計画の評価を行っております。次回以降、アンケートの結果も踏まえ、次期計画の方向性について審議したいと考えております。
高橋委員	「人口が増加してもごみを増やさない」の観点からみると、令和3・4年度のごみの発生量が減少しており、この間に色々な施策をしていたが、クリーンセンター側からみてどの施策が一番の効果があったのか意見を聞きたい。 指定ごみ袋の導入により、効果があったのか。 資料3の3、4ページに書いてあるが、国としての制度の導入と市の施策と関連があると思うので、リンクさせると効果があるか無いかははっきりすると思う。市の指定ごみ袋を導入したことによる効果は関心ある内容だと思うので、はっきりさせた方が良いのではないかなと思う。
事務局	市の施策の中で、資料2、4ページ図4にあるように令和4年度に指定ごみ袋を導入したことにより、令和3年度まではごみ発生量が多いが、令和4年度以降に減少しているので導入の効果があったと考えています。
高橋委員	その認識があるのであれば、文言としていれたら良いかなと思う。また、店頭回収は市の施策としては出てきていない。近隣のスーパー、コンビニ回収されることにより集団回収が減ってきているのではないかな。集団回収量は実際減っている。市の統計には出てこないが、市以外のところで資源化がされているという要因があるとも思う。
事務局	集団回収以外の店頭回収を使う市民は多いと、市としても聞いています。自治会の役員からも聞いていますが、どちらにしても市民が資源化への協力をしてきています。しかし、店頭回収の量については市では把握できていないので市の実態としては反映していません。
稲葉会長	事業者が回収してくれるなら税金も使わないで済む。全国的には良い傾向であると思う。店頭回収の量は自治体としてだけでなく、地域全体としてのリサイクル率等が向上することが重要であり、その推計に必要なため気になってはいるので、推計するうえで考慮すると良いかなと思う。
和田委員	原単位の計算のなかに年齢層が0歳からすべての年齢層が入っていると考えて良いのか。流山市は子どもが多い。何年後かに成人になった時の出し方が現状のまま続くとは思えない。生活様式、ごみの質が変わるということも考えに入れないといけないと思う。宅配で荷物が増えてきているので、そのごみや外食の食品ロス等を考えないといけない。新型コロナウイルス感染症以降に変わったことが多いので、どう考えたら良いのか疑問に思いながら検討していた。今後のことを考えていくことで、変化していく流山市をどう捉えるか考えることが必要。
稲葉会長	次回以降、今後の考えを反映してもらいたい。
高橋委員	施策1の生活スタイルの変化もあるけれど、啓発が重要となる。ごみ出前講座の要請先として、どこから要請がきているのか知りたい。
事務局	ごみ出前講座の要請は自治会からいただくことが多くあります。自治会のなかの老人会、自治会を越えて、地域で承ることも多くあります。

高橋委員	学校から要請されることはあるのか。
事務局	出前講座とは別にはなるが中学校から要請があってSDGsとごみについて講師の依頼を受けたことがあり、その際は職員が出向き、講義的なものを行いました。また、以前は高校からも要請がありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったこともありました。
濱野委員	資料3の1～5くらいまで、プラザ館の活動について、数字は出ているが今後どのように数字を増やしていくかの考えが知りたい。施策4の世帯に対してどれくらいの割合になるのか、店舗あたりどれくらいの数が賛同しているのか見えてこないのので教えて欲しい。
事務局	今後どうするかは次回以降に提示したいと考えています。プラザ館の活用については、新型コロナウイルス感染症の影響がありなかなか開催できていない状況でした。 生ごみ処理器補助金については、世帯に機器を行き渡らせるというより、生ごみの約8割は水分なので、そこを減量化するということを知ってもらうことを目的としています。 また、リサイクル推進店は2年に1回更新しており、資源物の回収を実施している店舗が登録しています。リサイクル推進店の認定についても、幅広く推進していき、今までとは違うところを認定していく予定としています。
濱野委員	施策8は増えていないので事業者宣伝しているのか。 プラザ館の自転車なども件数は増えていないので、もう少し市民に積極的に啓蒙した方が良いのではと思う。広報で訴えているのを見たことがない。廃棄用自転車は捨てずにリサイクル館に持ってきてほしいなどの広報を見たことがない。お金をかけずにできることはあると思うのでそういった啓発をしている方が良いのではないのか。
事務局	令和6年度版のごみの出し方を新たに冊子にした際に、大幅にページを増やして、案内を載せています。 クリーンセンターでは再販をするのが目的ではないので、言葉の問題でもあると思います。 リサイクル推進店については、以前、クリーンセンターの所長自ら、事業者へのぼり等を持って啓発を行ったことがあります。事業者的にはわざわざやらなくてもお客さんが来るからと店長の意向によりマッチングしませんでした。数字を増やすことが是非として捉われると難しいところかと思っています。認定を受けていることで広報に載せてはいるが、わざわざ載せなくても普段から来てくれるお客さんが知っているから認定はしないという事業者の意向もあるので、施策の進め方を検討していきたいと思っています。
和田委員	リサイクル推進店というのは、牛乳パックなど回収している品目はわからないのか。
事務局	清掃のあらましに種類もわかるよう案内を掲載しています。しかし、集めている品目が多い店舗でもリサイクル推進店に登録しなくて良いと事業者に言われると、市としてはリサイクル推進店として計上はできません。
和田委員	市民としては登録しなくてもリサイクル店の場所を地図にして欲しい。どこにもっていけば捨てなくて済むのかを知りたい。
事務局	別件で、店長に話を聞く機会があり聞いたところによると、自分のところに

	来てくれるお客さんへのサービスであり、顧客でもない人や、資源物でもないものを出してくる人が多くなるのを懸念しているそうです。店舗からするとお買い物にきたお客さんにはどんどん利用して欲しいが、ルールを守らない人が増えることを懸念しているようです。
羽田野委員	本日は前の計画の進捗状況を確認する場かと思う。資料３でみると◎が一番効いた施策と解釈している。具体的な目標を決めていないものについては、実態はわかるが施策として良いのかそうでないのかの判断ができない。 次の計画で施策を考える時に、数量的な目標が立てられるものは、数量的な評価をしていくのが良いのではないか。 CO₂の話は発生量が減ったと読めるが、例えば「運搬によるCO₂が減りました。」とは記載はあるが、どう計測したのか。焼却施設のCO₂が減ったということが言われているが、目標値がわからない。R1とR4はCO₂の量がだいたい同じだが焼却量に差があるので、数字が変わった理由が何だったかの議論があってから次の段階にいくべきなのではないか。 施策27について、解体の時期が引き続き検討になっているが、これが施策にあがっていた背景がわかれば知りたい。
事務局	施策27について、解体するにあたって単独で解体すると大きな金額が必要となりますが、跡地利用があつての解体となると補助金が出ることもあるので、補助金を活用したい考えです。 ただ、いずれは解体を進める必要がありますが、マーケティングの一環で、撮影として廃墟が悪役のアジトに使われるなどの利用価値があることもあります。
和田委員	解体すればごみの量が増える。解体しないのであれば利用価値も含めて、建物をリユースにもっていければ良いと思う。
稲葉会長	古い建物なので耐久性の問題もあり、いつまで使えるかにもよる。 CO₂については自分も気になっている。
事務局	CO₂排出量は今年度のものは集計中となっていますが、プラスチックの混入率により排出量が異なります。プラスチックの混入率が高ければCO₂排出量は多いし、低ければ少ないため、焼却量に対するCO₂排出量は変わることもあります。
稲葉会長	運搬時のCO₂排出量は距離で出しているのか。
事務局	収集業者から走行距離を提示してもらっており、それを踏まえて算出しています。
稲葉会長	次にアンケート項目について事務局より説明をお願いいたします。
事務局	～事務局説明～
羽田野委員	QRコードでの回答は回答率が上がると思う。 例えば、小学生アンケートのその他の項目に、何で情報とっているかの問いがあるが、流山市はフェイスブックをやっているのか。
事務局	公式のフェイスブックがございます。
和田委員	最初の表題をもう少し目的にあった表題にする等、目的をもう少し明確にした方が良いのではないか。 例えばQ13は何のために聞きたいのか。なぜ増えたかを聞かないと意味がないように思うので、設問の目的を明確にするのが良いかと思う。答える人が

	答えやすいように、疑問をもたないようなアンケートを作らないといけない。
事務局	ご指摘のとおりのことにはあるかと思います。しかし、設問の枝葉が増えると設問が増えることもあるし、深掘しすぎてかえって答えづらい問題もできてしまうこともあります。
和田委員	小学生用アンケートとして、小学生向けにシンプルにやるのであれば、子どもが答えやすい設問や、クリーンセンターの学習目的など、結果が出るようなアンケートをとりたい。聞きたいことが何なのか、聞きたい目的を明確にし、計画に反映できるアンケートをとりたい。 事業者は答えられない設問があるように思う。
關委員	事業者として回答したら、クリーンセンターとして実際は受け入れられない事業系ごみを受け入れてくれるのだと思う内容がある。令和6年4月から各事業者に案内をしていると思うが、ようやく事業者も廃棄物に対して考えや出し方が浸透してきた。実際、市のクリーンセンターに事業者が搬入して回収してくれているのか。金属類は金属くずと言うような名称の問題もある。こういったものを種類別にアンケートに選択できるようになっているが、クリーンセンターに持ち込んで良いのではと思う事業者もいるのではないかな。浸透させているところなので、かえって迷わせてしまうのではと思う。選択肢2番の「クリーンセンターへ自ら搬入」は入れるべきではないのではないかな。 書いてしまっただけは間違った解釈をされる可能性がある。
羽田野委員	次のごみは何に分類されているか知っていますか。という設問にした方が良いのではないかな。選択肢の「その他」については、「わからない」という文言にしたら良いと思う。そうしたら子どもの認識がわかる。
濱野委員	アンケートについて「お子様と一緒に回答してください。」では家庭のお母さんが答えてしまう。子どもだけで答えられるアンケートにしてはどうか。
高橋委員	「親御さんと答えてください。」ではなく、子どもに聞くような設問の仕方にしてはどうか。授業の一環でアンケートをして、施設の見学にくる流れにすると良いように思う。 Q23の「市民と」と誤植がある。 Q11で電子タバコとか充電式とか、一般に混ぜてしまうと収集者がけがをするからなど、質問者の意図があると思うが、どうしてこの設問を入れたのかの疑問がある。
和田委員	Q29はこういった記載では何も書いてもらえないのではないかな。ごみの減量になるアイデアとか資源化したいもののアイデアがあればとか自分の意見を反映してもらえそうな書き方をしたら良いかなと思う。
事務局	4月から事業者への案内を行っていますが、無意識に適正でない排出方法を行っているとかそういう内容に対しての施策を計画に反映したいところです。あえて入れていたところもあるので、アンケートの回答によっては、アプローチの方法を変更、若しくは強化する方向性でいきたいと思います。市民や事業者の行動を正したいわけではないので、設問の意図が見えてしまうと、実態ではなく正しい回答をされてしまいます。実態を調査するにあたり、作り方について意見が欲しいです。
羽田野委員	新しい事業者の出し方で、実態としては、まだクリーンセンターにきているのか。

事務局	特に来てはいません。
羽田野委員	来ていないのであれば、あえて書く必要はないのではないか。
和田委員	電子タバコの出し方について、吸っていないので本当にわからないという人もいるので、回答に「わからない」を追加するのが良いかと思う。
高橋委員	設問の目的と質問を検討する時期の確保のために８月に行わなくても良いのではないか。
事務局	まだ時期については時間をとれると思うので、次回にアンケートの設問を改めて審議して、実施することは可能かと思います。時期については再度検討します。
稲葉会長	次に、議題の２「その他」について何かありますか。
和田委員	アンケートの修正について次回審議会で話し合うより、アンケートの素案が出来た際にメール等で事前に送付して頂き検討することで良いものが出るかと思います。
事務局	回りの審議会の場ではなく事前にご意見をいただくということでよろしいでしょうか。
和田委員	よろしいです。
杉村委員	市内の高齢者で、支援がないとごみが出せない人がいる。事務局の考え方を教えて欲しい。
事務局	高齢者のごみ出し支援について、パンフレットがありますので後ほどご説明いたします。
事務局	以上をもちまして、令和６年度「第１回流山市廃棄物対策審議会」を閉会いたします。 次回の審議会は、引き続き「一般廃棄物処理基本計画の見直し」についてご審議いただきますが、１１月中旬頃を予定しております。 日程が決まり次第、改めまして、ご通知いたしますので、よろしくお願い申し上げます。 また、アンケートについては、委員の皆様事前にメールでお送りするようにします。 以上で審議会を終了します。本日は、ありがとうございました。